

# 新技術系講座 「ビッグデータと知財（東京）」 ～その根幹を成すAI技術の実践的理解～

<b>実施日程</b>	第1回：2019年2月18日（月）18：30～21：45 弁理士会館 第2回：2019年2月25日（月）18：30～21：45 弁理士会館 第3回：2019年3月4日（月）18：30～21：45 弁理士会館
<b>受講料</b>	30,000円（税込・テキスト代込）
<b>対象者</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新技術系講座「ビッグデータと知財～その根幹を成すAI技術の実践的理解～」の内容に興味がある方</li></ul> <p>～以下、の受講対象者の例～</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビッグデータと、その根幹を成すAI技術の基礎から実践的な理解を深めたい方</li><li>・弁理士として、AI技術をどのように知的に保護していく必要があるのかを理解したい方</li><li>・AI関連技術を通じてクライアント（中小企業）支援、提案を目指す方</li><li>・企業にお勤めで、社内関係者に対するAI関連プロジェクトの提言力を高めたい方。</li></ul>
<b>概要 ねらい</b>	<p>最近よく耳にするビッグデータとはどのようなものなのか。</p> <p>本講座では、ビッグデータとその根幹技術である人工知能（AI）がどのような技術であるか、AI開発に多用されるツールを用いた実習等を通じて、より実践的な技術理解の習得を目指します。</p> <p>また、ビッグデータとAI技術の知財化においてどのようなことを留意する必要があるのか、特に、AI関連プロジェクトについて、弁理士の立場において、どのように関わっていくべきか、ケーススタディやグループディスカッションを通じて理解を深めて頂きます。</p> <p>人工知能（AI）、特に最近話題の「ディープラーニング」について、技術の概略、応用分野を説明し、知財化に関する留意事項について解説します。</p>
<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知的財産の専門家として、ビッグデータと、その根幹を成すAI技術の基礎的な知識を習得する</li><li>・AI開発に多用されるツールを用いて、より実践的な理解を深める</li><li>・AI関連技術を通じてクライアント（中小企業）に対する提案を行うことができるようになる</li><li>・社内関係者に対するAI関連プロジェクトの提言力を身につける</li><li>・AI関連技術の知財化においてクライアント・弁理士のそれぞれがどのような役割を果たしていくべきか理解を深める</li><li>・機械学習関連の知財をどのように保護すべきかの理解を深める</li></ul>



担当  
講師

## 土田 安紘 (つちだ やすひろ)

AI TOKYO LAB CTO 兼 AI HOKKAIDO LAB 所長 (弁理士)

北海道大学大学院修士課程修了。

2001年4月に松下電気産業株式会社(現パナソニック(株))に入社し、NTTドコモ向け携帯電話のミドルウェア開発に従事した後、本社R&D部門にて幾つもの新規事業開発プロジェクトを主導。

その後、米国シリコンバレーでの社内起業プロジェクトリーダーに抜擢され、2012年から2016年まで米国・日本市場向けのモバイルO2Oサービス事業の立ち上げを主導。

AI新時代の到来、AI活用ビジネスの最前線で業界リーダーとして“ふるさと北海道”からグローバル市場を切りひらくための挑戦の場として魅力を感じ、AI TOKYO LABに入社。

現在は、CTO兼、札幌を拠点としたR&D拠点「AI HOKKAIDO LAB」所長として、「AIによる小売の再定義」の技術戦略の立案や、本戦略を実現するためのR&D体制構築を担当。

弁理士として全社の知的財産戦略も主導している。

内容  
(予定)

### 【第1回】ビッグデータ及びAI技術の詳細とその応用

<レクチャー&演習>

AIにおいて、昨今特に各ビジネス分野への応用が期待される、ディープラーニングに関して、掘り下げて説明をする。

特に、画像認識分野における応用が期待されているCNN(畳み込みニューラルネットワーク)について、どのようなメカニズムで実現されているのかを詳細に説明する。

Google ColaboratoryというAI開発に多用されるツールを用いた簡単な実習を実施する。

※受講者は各自PCをご持参いただきます。

### 【第2回】ビッグデータ及びAIのビジネス活用

<レクチャー&ディスカッション>

AIの各種応用事例の紹介、及びAI関連のプロジェクトをどのように運用すべきかを説明する。

弁理士の観点としては、AIプロジェクトを主体的に立ち上げる、という機会は少ないかもしれないが、今後大量に立ち上がってくると予想されるAI関連プロジェクトについて、これまでのITプロジェクトとの違いはどのあたりにあるのか? 弁理士の立場において、このようなAIプロジェクトとどのようにかかわっている必要があるのか、につき説明する。

後半はグループディスカッション形式で、仮想のAIプロジェクト起案に挑戦する(クライアント側AIプロジェクトの立ち位置を理解し、よりよいクライアント・弁理士関係の実現を目指す)

### 【第3回】AIと知財

<レクチャー&ディスカッション>

AI関連技術の取り扱いにつき、知財の観点から留意すべき事項はなにか? 特に機械学習における特許・著作権に関連する特殊性について触れ、ケーススタディーを通じて、機械学習関連知財をどのように保護していくべきかについて説明する。

後半は、機械学習関連の特許出願のユースケースにおいて、グループディスカッションを実施する。